

## ふげんの国際貢献について

新型転換炉ふげん発電所においては、これまでのプラント自主開発の経験と、約23年に及ぶプラント管理技術を基に近隣アジア諸国を対象として「海外原子力研修生の受入」、「ふげん技術者の講師派遣」を行っています。また旧ソ連・東欧諸国における原子力安全支援の一環としてRBMK炉（黒鉛減速沸騰軽水圧力管型原子炉）への運転管理等に関する支援も行っております。

1～2月の間に2件の国際貢献活動を行っておりますので、お知らせいたします。

### 中国へのふげん技術者の講演派遣（1/17～1/27）

新型転換炉ふげん発電所においては、これまで原子力平和利用の国際協力の一つである文部科学省原子力研究交流制度の枠組みを利用して、昭和63年（1988年）以降、海外研修生（現在6名の方がふげん発電所にて研修中）を52名受け入れるとともに、のべ35名の講師を近隣アジア各国に派遣しています。

この度、これまでの自主技術開発や運転経験を通して得られた安全技術の知見や原子力発電運転管理のノウハウの伝達及び原子力安全文化の醸成を主眼として、中国の原子力発電所建設所や原子力研究開発機関等を対象に講演を行いました。

### リトアニアとの技術交流に伴う現地調査（2/4～2/9）

旧ソ連・東欧諸国における文部科学省の原子力安全支援の一環として、平成12年度にイグナリナ原子力発電所の運転訓練施設に給水制御系運転支援システムを提供し、その適用性試験を実施してきました。

この度、ふげんの技術者を現地に派遣し、給水制御系運転支援システムの評価のための現地調査を行っております。

以上